

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200054		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	グループホーム 諏訪の森		
所在地	熊本県上天草市姫戸町二間戸276-5		
自己評価作成日	令和1年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草場町1-13-205		
訪問調査日	令和2年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの生活リズムに合せ支援しています。また、季節に合わせた行事を行い季節感を感じてもらえるよう工夫しています。しかし入居者様の介護度も高くなり認知症の進行も見られます。それぞれにあった対応方法に、日々職員で話し合い対応しています。その中でも、楽しみや役割を持つことでメリハリのある生活を過ごしてもらえるよう努力しています。90歳代の入居者様もおられ、病気の事や今後について他職種とご家族と連携し入居者様に安心、安全に生活してもらえるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八代海の入江に位置し、自然環境を活かしたキャンプ場や運動公園が隣接する場所に位置しています。リビングからは海を望むことができ、各室内からは自然の移り変わりが感じられます。利用者の日々の生活を支援していくための、ケアプランと介護計画が、管理者、ケアマネージャーを中心として各担当者によって作成され、具体的な介護実践が提供されています。医療との密な連携が図られ、利用者の健康管理に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、入居者様の状況が違うが、臨機応変に対応している。理念のもと24時間安全・安心できる介護を提供しています。	事業所の理念が、日々の実践活動につながるとともにスタッフの個人目標につなげ、具体的な行動となるように勉強会で確認されています。	理念を常に意識し、より具体化して日々取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度は、ほとんど地区の行事に参加できなかった。事前に確認し1日のスケジュールに入れ参加できるよう努力します。	立地条件もあり、日常的な地域との交流が難しいと認識されています。	地域の人々との新たな関わり方を検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れは、行なっているが多忙の為来訪されていない。運営推進会議で近隣の方についての相談を受けることが多くなり、その都度助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の行事報告や勉強会の報告等行なっています。離苑される入居者様がいらつやるのでその方について話、近隣の方に協力を相談しました。	運営推進会議は定期的実施されています。意見などはなかなか出ていません。	事業所自らの改善策や、新たな取り組みなどを模索し、提案型の会議を検討されてはいかがでしょうか
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	調べて分からない事は、電話で確認するようにしています。また運営推進会議時に相談し次回開催時報告してもらう等しています。	市町村との連携はできています。数日前実地指導をうけられ、生活面で課題を抱えている利用者について、いろいろと相談されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等検討委員会で身体拘束について話している。また、センサー使用や窓の2重ロックなど実施した為身体拘束の同意書を得た。	現状では身体拘束はないと認識されています。定期的に検討会を実施し、具体的な事例をもとに学びの場を設けています。	日々、利用者の安全を確保しつつ、自由な生活を支援していかれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センサーは継続し使用している。身体拘束の勉強会や身体拘束等検討会議の議題などを話、身体拘束とはどのような事かを職員が理解できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	合同勉強会で学ぶ機会があるので、職員全員が理解できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族様に説明し入居して頂いています。入居後に変更などあった時はその都度説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、入居者様の様子を報告しています。	面会時に声をかけ、積極的に聴く努力をされていますが、利用者、家族からの意見は少ないとのことです。	躊躇なく、意見や思いを伝えることができる場面や方法等を検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やミーティング時に意見交換を行っています。月1回の事務長報告会。年2回の職員アンケートを実施し職員の意見を聞く機会があります。	職員の意見や要望を聴く機会は、定期的に設けられています。	職員の意見や、職員アンケートに対してのフィードバックが、次のステップへ活かされるのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スケジュールを作成し勤務がスムーズに行なえるようしています。年2回のアンケートを通して、不満がないか等を確認している。また問題が発生した時はその都度対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の発表会や月1回の合同勉強会に参加しています。また、外部の研修案内があれば声かけし参加をするよう促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種連携会議や合同勉強会に参加し情報交換や意見交換を行なうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの相談はその都度聞くようにしています。入居生活に早く慣れられるよう、他の入居者様の間に入ったり、職員で話し合い工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時に声をかけ、要望等ないか尋ねています。要望等は出来るだけ応えるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に情報収集を行います。日中夜間の様子観察を行い介護サービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯干しや、食後のテーブル拭きホールの掃除等を職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊等で困らないよう、面会時に現在の様子を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の面会は少なく、面会時にはまた来ていただける様声かけています。苑外散歩を行ない、近隣の方と新しい関係が出来るよう努めています。	地域の方々との交流ができるように近隣での散歩などをされていますが、継続的な交流はできていないようです。	利用者が安心して、その人らしく生活できるように支援されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で、言い合いになる事がある。その時は職員が間に立ち対応している。必要であればホールの席替えなど行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も様子を見に行く体制があります。ご家族様にお会いした時はお話をする機会を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様より希望を聞き意向に添えるようにしています。困難な場合はご家族様に伺うようしています。全ての希望には添える事が出来ていないので、今後も検討が必要だと思います。	日々の関わりの中で声をかけ把握に努め、内容によっては、優先順位を考えて対応されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人又はご家族様に尋ねるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態を申し送り時やミーティング時に話し合い、全職員が把握し統一した介護が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様その他担当者が話し合い介護計画を作成しています。	ケアプランに沿って、実践につながる介護計画が担当職員によって作成され、モニタリングまで実施されています。ケアマネージャーはそれらに沿ってアセスメントを行い担当職員とともに次へのプランへつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や変化があった時、入居者様の訴えなど記入するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるよう、主治医や医療連携看護師、その他各部署と連携し支援が出来るよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方の協力を得て、安全で安心して過ごしてもらえるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援しています。また、他の医療機関でも主治医の指示のもと、安心して受診できるよう支援しています。	適切な医療の提供ができるように、主治医より月に2回の往診とともに、定期的な受診が月に1回実施されています。	家族への受診の結果や情報の伝達方法について、検討されてはいかがでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師に入居者様の状態や、希望等を報告している。受診や、往診等をスムーズに受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交流や情報の共有に努め、安心して治療が受けられるよう支援しています。また、退院後の再入居も臨機応変に対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に1度ご家族様に確認しています。状態変化時はその都度確認するようにしています。	年に1回の家族会の時に毎回確認されています。看取りの時期になると在宅総合診療となる体制を、関係医療機関との連携で整えています。	利用者や家族、事業所側の状況の変化に応じて、都度、話し合いを繰り返す積み重ねが必要です。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成している。待機職員の配置等はミーティング時行うようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は行なっている。近隣住民、運営推進会メンバー等の参加は、まだありません。	訓練は消防署の協力を得て定期的を実施されています。	緊急時の連絡については、一斉メールを使うなど、速効性ある方法手段を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけや対応等はまだ配慮が足りない所もある。その都度注意しています。	個人情報や守秘義務については、責任あると取り扱いができています。利用者に対して言葉の内容や語調が十分でない時があり、日常的に改善に向けての努力をされています。	一人ひとりの権利を保障し、人格を尊重することが対人援助の基本原則です。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意見などはその都度伝えてもらえる環境である。自己決定が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合せ支援・介護が提供できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出出来る方は、新しくなじみの関係をつくり美容室に行かれるよう支援しています。困難な方は、散髪依頼を行い支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し献立を作成しています。入居者様と野菜を刻んだり、調理をしたりしています。	利用者の前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけをし、その日の調理担当となった職員と一緒に調理を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を使用しています。摂取量など観察し記録にしています。水分摂取量が少ない方は1日の水分摂取量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在の入居者様は、自立なので毎食、口腔ケアが行われているかチェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう支援しています。また、出来るだけ紙パンツを使用しない介護を、職員で話し合い支援しています。	トイレでの排泄を可能にするため、利用者本人の生活に沿った支援等に努めています。布パンツ2名、夜間のポータブル使用者2名です。	可能な限りトイレで用をたす支援や、気持ち良く排泄するための工夫を検討されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便をチェックしています。水分補給の声かけし量を把握し、体操時は運動するよう心掛けてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴を提供しています。1番に入りたいと声があったので、日替わりで順番を決め、4、5回に1回は、1番風呂になるよう工夫しました。	入浴が楽しみになるように、一人ひとりの意向を第一にくつろいだ気分で入浴できるよう支援が行われています。	入浴という行為は、利用者の習慣や希望に多様性があります。相談しながら個別の入浴支援を行われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人に合せ行なっています。貸し出し用寝具の為、週1度の定期シーツ交換、汚染時の交換。布団類の定期的な交換によって、清潔に気持ちよく休まれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は把握し、目的や副作用等は個人記録で確認できるようにしています。また、症状に変化があった場合は主治医に連絡します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事を計画し楽しみを持ってもらうようにし、その準備を入居者様に手伝ってもらっています。出来上がりを楽しみにされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩は、スケジュールで管理し行なっています。天気がいい時は、外で食事したりおやつを食べたりしています。	戸外活動は事業所周圍の散歩や戸外での食事などは楽しまれています。買い物や利用者自ら行きたい所へ出かけられるような支援はできていないようです。	利用者個々の習慣や楽しみごとを把握し、日々の楽しみを創造していくことも必要ではないかと思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方は、職員管理行なっています。個別で収支ノートを作成しています。ご家族様来訪時は、確認してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された場合は、随時行っています。現在入居者様の中で、携帯電話をお持ちの方がいらっしゃり、職員が支援し使用されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、清潔に心掛けている。談話室では、畑など観察に来られるため、スペースを確保している。	利用者の方々が過ごされるフロアからは海が見え、他方は公園や畑が見渡せ、自然の眺望が季節感を漂わせる環境です。廊下の壁には利用者の作品が展示されています。	利用者の居心地の良さや、心身の活力を引き出すための空間づくりを検討されてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、思い思いの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や、好みの洋服等持ってきていただいています。本人に確認し物の配置や、片付け等行なっています。	シンプルな居室も見受けられましたが、利用者の手編の椅子かけやベットのカーバーや家族の写真などが飾られており、利用者個々の生活にあった居室づくりがされています。	利用者個々人の思いを大切に、安心して過ごすことができる空間づくりを更に検討されることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりを把握し、自立した生活が送れるよう支援しています。		